

平成27年8月18日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢
(コード2388 東証JASDAQ市場)
問合せ先 開示担当 横山 幸弘
(TEL 03 - 6225 - 2207)

カンボジアにおける事業の急激な成長を受け、GLが過去最高の利益を発表

タイ国内では景気後退が原因となり売上高が停滞しているにもかかわらず、SET 上場のオートバイリース会社 Group Lease Public Company Limited (GL)は、2015年6月までの第2四半期で、新たに過去最高の利益を達成したと発表しました。これは、大きくカンボジアでの事業が急激に成長したことによるものです。

連結純利益は今期129.47百万バーツまで飛躍的に増加しました。これは6.94百万バーツという低い数字だった2014年第2四半期の純利益の1,765%という、桁外れに大きな躍進となります。四半期ごとの比較においても、今期の数字は、今年の第1四半期における純利益110.24百万バーツから17.4%の増加を示しています。

新たに過去最高の利益が達成された要因として、不良債権に対する引当金の額が減少したこと、複数の製品販売により損失が減少したこと、そして最も重要な点は、GLの海外拠点、特にカンボジアからの利益貢献が大幅に増加したことが挙げられます。

GL 会長兼最高経営責任者である此下益司氏は、「当社はCLMV(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム)市場に向けて戦略的な活動を行ってきたが、その結果が出てきている。当社の(事業地域)拡大が勢いを増すにつれて、これからさらに好調な業績が見込まれる」と述べました。

第2四半期はタイ旧正月(ソクラン)の長期休日を含むため、通常同社にとっては閑散期です。そのため、同社の上層経営者は第3四半期にさらに良い数字を見込んでおり、また、慣例上最も忙しい時期となる第4四半期にはさらにより急激な利益上昇を予想しています。

分割払購入の利息収入から得られた連結収益は、2015年第2四半期に471.48百万バーツにまで達し、昨年と同四半期から29.11%の増加となりました。しかしさらに、不良債権引当金の管理を改善したことによる収入等の「その他の収入」は、同じ期間で、25.46百万バーツから133.64百万バーツまで上昇しています。

此下氏によると、GLはタイ国内の経済停滞を考慮してタイでの事業運営に保守的な方針を採用し、量よりも質に主たる重要性を置いています。約50億バーツのポートフォリオ、販売台数4,500台というタイのずば抜けた事業規模に対して、同社は不良債権率(NPL)を、昨年の11%という高い割合から現状は7%まで引き下げることに成功し、年末までに5%とすることを目標にしています。

活気のないタイの状況とは逆に、GLの全額出資子会社であるGL Finance(GLF)が運営するカンボジアでのリース事業は、HONDA オートバイおよびKUBOTA 農機具共に、非常に順調な成長を見せています。

此下氏はまた、カンボジアにおける事業の費用効率が非常に良い理由として、わずか0.4%という低いNPL、タイのわずか三分の一程度という少ない運営費用、それにGLが独自に開発した信用評価システム E-Finance による業務効率向上が挙げられる、と述べました。カンボジア全域に広がった 160 箇所以上の POS(販売拠点)が作る精巧なネットワークを HONDA および KUBOTA ディーラーと並んで運営することにより、こうした効率の良い事業運営が增強されています。

ポートフォリオはオートバイ約 30,000 台というずば抜けた成長を見せ、月次販売台数は現在約 1,700 台から 1,800 台で、年末までには 4,000 台まで伸びると予想されることから、此下氏はカンボジアからの利益が来年度中にタイの利益を超えると予想します。

一方、先日操業開始したGLのラオスにおける事業は、9月には損益分岐点に到達し、最後の四半期には利益貢献を開始する見通しです。ヴィエンチャンとその周辺地域において 40 箇所の POS ネットワークを展開し、ラオスでの事業はカンボジアで育まれた成功モデルを採用することで、黒字化への期間を大幅に短縮することになります。

以 上